

晩秋

》夜の道を二人きりで歩いてゐるのに
どうしてうれしくないのだらう

ごらん 建物の肌に影をきざみこんである木の葉の執念を
あれは ほんたうに生きてゐるからだ

》街燈が二人の影をよりそはせてゐるのに
かうしてゐるのに どうしてだらう

ごらん お前の心の中の計算を お前の……
それは僕と同じやうなものだらう

》愛について 美しい生き方について
僕が話し お前は聞いてゐるのに

ごらん 木の葉の落ちるのはすさまじいやうな気はくがある
あれは なまやさしい死にざまではなささうだ